

REALE
BEAUTIFUL CAR

雨上がりでも、深いツヤが1年以上続く

RUSH

Hydrophobic Glass Coating

最新施工マニュアル (2021.11)

RUSH 施工の流れ

①洗車

新車の場合は、塗装面の油分を落とすため脱脂シャンプーを使用し洗車する。脱脂シャンプーはバケツに 50 倍に希釈して泡立てて使用する。脱脂シャンプーは弱アルカリ性のため水でしっかりと洗い流す。

②下地処理

新車以外は、水垢取りシャンプーで下地処理する。水垢取りシャンプーを使用した場合は、もう一度しっかり洗車してケミカルをよく洗い流す。
(必要に応じて鉄粉除去等のオプション施工)

※経年車で塗装にダメージがある場合は、研磨オプションを付ける。
研磨後は必ず脱脂シャンプーをする。

③拭き上げ

エアブローにて水気を飛ばし、しっかり拭き上げる。
ステップ、ボンネット、トランク、給油口周りも拭き上げる。

【再施工について】

1 年後の再施工については、必ず水垢取りシャンプーで下地処理した後に洗車をして拭き上げ後、コーティングを再度施工する。

RUSH 施工前に準備するもの

1.RUSH 主液



2.RUSH 反応液



3. 上蓋



4. スポンジ



5. 仕上げクロス (2 枚)



④コーティング施工

1.RUSHの1液と2液を混ぜる。(20回程度しっかり振る)

1液と2液を混ぜ合わせるによりケミカルが反応し硬化が始まります。

残ったケミカルはしっかり蓋を閉めて保管した場合、三日以内であれば使用可能。

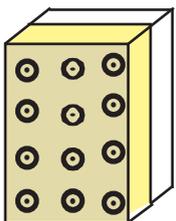
2.上蓋をはめる。

3. スポンジに溶剤をケミカルを20滴以上多めに付ける。
ボンネットを4分の1に分けた面積を1スパンとして隙間なくフチまでしっかり塗り広げる。

※全体を一周施工したら、再度塗り残しがないかボディ一面をよくチェックして、ケミカルが足りていない所は再度塗り直す。

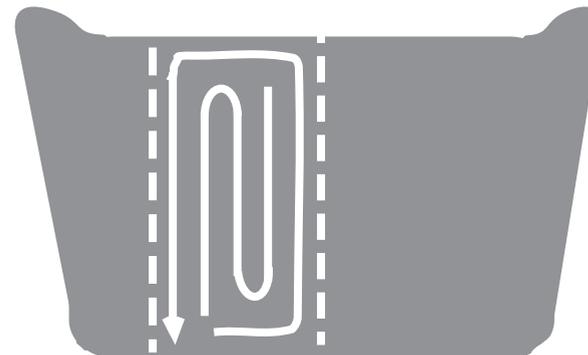


ケミカルの塗布量

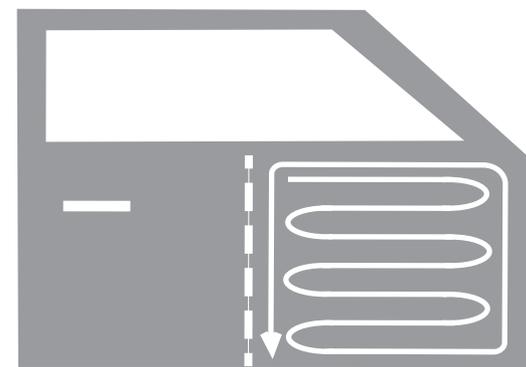


塗り始めは、スポンジの端から順番にケミカルを付けて最後に中央に合わせて20滴以上付ける。ケミカルをしっかり付けると塗り残しが少なくなる。スポンジにケミカルが馴染んできたら、状況に応じてケミカルの量を調整する。

1パネルごとの施工手順



ボンネットを4分の1に分けた面積を1スパンとして塗り広げる。



ドアパネル2分の1に分けた面積を1スパンとして塗り広げる。

⑤乾燥・硬化

1. ケミカルを塗布した後、乾燥させる。

硬化が始まるとケミカルの表面が白っぽく乾いてくるが、しっかりと定着していない状態で拭き上げしてしまうと塗装面にコーティング剤が残らないため、不十分な疎水膜になることや、コーティングの持ちが悪くなる場合があるので確実に乾燥させてから拭き上げる。

POINT

1 枚目のクロスで拭いてコーティング剤が伸びる場合、乾燥が足りていないのでもう少し時間を置いてから拭き上げる。

1 枚目のクロスで拭きすぎない。あくまでも 2 枚目の乾いたクロスでしっかり仕上げるのが理想。

⑥拭き上げ

1. マイクロファイバークロスを 2 枚用意。

(1 枚は水で濡らし固く絞ったクロス、1 枚は乾いたクロス)

2. 水で濡らし固く絞ったクロスでコーティング剤を大まかに拭き上げ、次に乾いたクロスで水気をしっかり拭き取りムラがないか確認しながら仕上げる。

パネルごとにクロスの面を変えて施工する。



(C)REALE.All Rights Reserved.

乾燥の目安

夏場 (20 度以上) 30 分

冬場 (20 度以下) 60 分

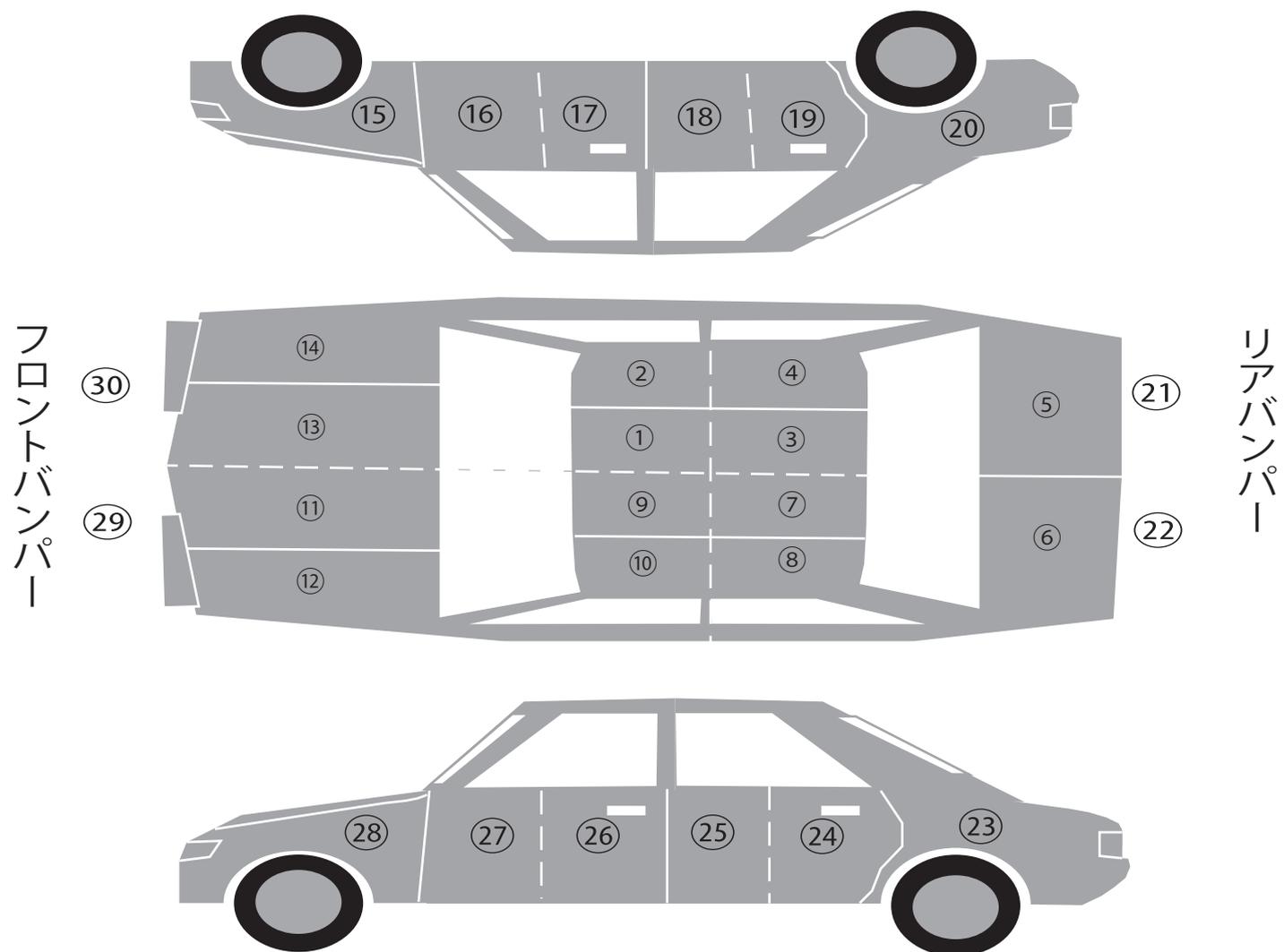
気温 10℃以下の場合は速乾 RUSH を使用して下さい。

作業手順は同じですが、乾燥時間 20 分で OK (60 分以内に必ず拭き上げが必要)

1 パネルごとの施工手順



4. コーティング施工手順



⑥仕上がり確認

1. ボディに拭き残しがないか車を一周して確認する。
2. ガラス面もキレイになっているか確認する。
※濃色車はチェックボードを使用すると確認しやすい。
3. タイヤワックスで仕上げる。
(コーティング乾燥中に時間がある場合は、タイヤワックスは事前に終わらせる。)



角度を変えて色々な方向からムラの確認

⑦乾燥

乾燥させコーティング剤が定着、硬化することで疎水膜が完成する。
乾燥が不十分な状態で水に濡れても問題はないが、水の流れが弱い場合がある。
その場合、時間を置けば撥水します。
※目安・・・夏場 30分～ 冬場 60分～



⑧施工証明書の記入

⑨引き渡し
